



友人の皆さん、

サレジオの宣教事業は、事実、ドン・ボスコが自らの事業の筆頭に位置づけた夢、挑戦です。私にとっても宣教は、常に心に抱いてきた大きな夢で、短期間でしたが、ハイチで実現しました。

扶助者聖マリア同窓会は、サレジオ・シスターズの教育の使命に参加することを、優先的取り組みとして規約とアイデンティティ憲章に定めています。それは教育的環境において実践され、その中で、私たちを特徴づける信徒・ライチのスタイルを取りながらサレジオ・ミッションに浸透します。他者への愛に基づく教育と鍛錬を受ける機会に、私たちは恵まれました。そのため、世界中のサレジオ・ミッションへの参加を私たちは奨励しています。実際、特別に宣教事業のために働く私たちのNGOがあります。Associazione Mornese ONLUSです。

私たちは宣教する教会と共に歩み、福音を告げ知らせなければなりません！ 共に分かち合い、今日、教会が必要とするパン種にならないのです。

■ FMA同窓会世界連合モルネーゼ会長
マリア＝カルメン・カスティジョン

全ての民へのミッション Ad Gentes Mission



全ての民に福音を宣べ伝える「Ad Gentes Mission」は、よく使われる表現です。しかし、実際、何を意味するのでしょうか。それは、ただ宣教ボランティアになったり、宣教を体験したり、資金集めなど宣教のための活動をするにとどまりません。ラテン語の「missio」に由来する「mission」は、「遣わす行為」を意味します。他方、「Ad Gentes」は、「人々に向かう」動きを表します。特にイエス・キリストを知らない人、あるいはかつて知っていたけれど現在はキリストへの信仰を捨てている人に向かう動きです。したがって、Ad Gentes Missionは、「キリストをまだ信じていない人々や団体の中に福音をのべ伝え、教会そのものを植えつける務め」（第二バチカン公会議文書「教会の宣教活動に関する教令」AG, n. 6）です。

今日、「全ての民に福音を宣べ伝える」ことは、アフリカであろうと、ヨーロッパであろうと、森林地帯あるいは都会の真ん中であろうと、福音を告げる必要のあるところであれば、どこでも行われるのです。同じように、「宣教活動はすべてのキリスト者、すべての教区と小教区、教会の施設や団体にかかわることがらであるという、新しい自覚があります」（ヨハネ・パウロ二世回勅『救い主の使命』RM 2）。

- 使徒言行録には、Ad Gentes Missionのいくつか重要な要素が見られます。それは今日も、私たちの導きとなるものです：
- ダマスコに向かう道で**イエス・キリスト**と出会ったことは、サウロを根底から生まれ変わらせた。キリストは、必ずAd Gentes Missionの出発点であり、目的です。キリストのため、キリストのことを、キリストによって宣べ伝えるのです。
- アテネのアレオパゴスでの演説で、聖パウロは死者の復活や救いといった概念を紹介しました。実に、**第一次福音宣教**は、Ad Gentes Missionと密接に結ばれ、またその土台であるのです。
- **キリストをあかしすることが、初代キリスト者共同体の中心的な活動でした。真実なキリスト者としての良いわざ、また縛るもの、神から引き離すものから、貧しい人、疎外された人を解放する手段の積極的な探求が、Ad Gentes Missionには必ず伴います。**
- フィリポの活動は**聖霊**に駆り立てられたものでした（使徒言行録8章26, 29, 39節）。私たちが到着する以前に、諸文化、さまざまな信仰、人々の心に働きかけておられるのは聖霊です。聖霊はAd Gentes Missionを方向づけ、触発し、前進させます（『救い主の使命』RM 21）。
- 聖霊降臨は、高間での祈りの結実として起きた出来事でした。奇跡や癒しも、**祈り**を通して起こりました。実に、私たちがAd Gentes Missionに献身する動機、力、知恵、愛を見いだすのは、祈りを通してなのです。

■ 宣教顧問

アルフレッド・マラヴィジャ神父, SDB

振り返りと
分かち合いのために

■ どうすれば、自分が暮らし、働いている場でAd Gentes Missionを成長させることができるだろうか？

■ 自分のキリスト者としての真実な生き方のあかしを、私はどれほど重視しているだろうか？



チュニジアのイスラム教徒と共に暮らすサレジオ会員



チュニジアでの実地課程で、最も意味深い体験、あるいは出来事は何でしたか？

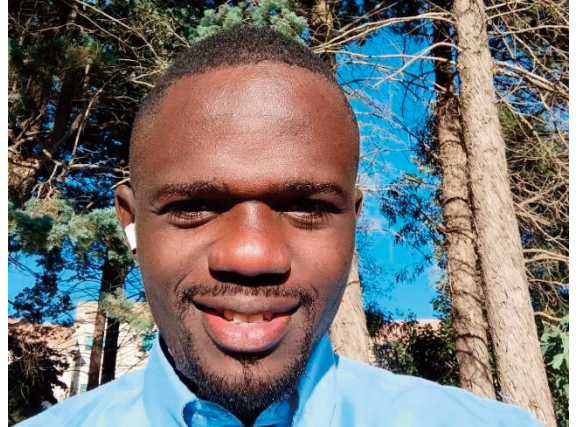
99パーセントがイスラム教徒であるチュニジアの若者たちは変化のただ中にあります。実地課程は、彼らと共に生活する機会を与えてくれました。日々、彼らの文化の中で、喜びや希望を共にしました。私がチュニジアに来たのは、いわゆる「アラブの春」の波の後でした。その波は、言葉を語ることへの恐れから人々を解放したようでした：人々は社会や政治の営みを構成するさまざまな話題を、多様な意見をますます尊重しながら、自由に話し合えるようになりました。私が興味をひきつけられたのは、平和的に、また同時に監督の下で人々が共存していることでした。それでいて人々は、自分たちの宗教とイスラムの伝統を大切にしようと、強く意識しています。

イスラム教が大勢を占める国で、サレジオの存在とカリスマはどのように発揮されているのですか？

私たちの学校やオラトリオで実践される教育法を通して、「ドン・ボスコ」を「イタリアの教育者」として若者の心に届けています。私たちは「宗教の烙印を押さない」かたちで使徒職を果たしていますが、シャルル・ド・フーコーが行ったようにそれを行っています：「私の使徒職は、慈愛の使徒職でなければならない。私を見る人が、このように言うほどに：この人がこれほど良い人なら、この人の信じる宗教は良いものにちがいない、と。(…)人が次のように言うほど、私は良い者になりたい：しもべがこのような者であるなら、主人はどれほどだろう、と。」私たちが共同体として自分たちに課しているただ一つの使命は、若いチュニジア人を「良い信仰者、誠実な市民」となるよう、育成することです。

今月、私たちは非暴力のために祈りますが、チュニジアでは非暴力に関わる問題がありますか？

「ポストモダニズム」や「解放」の概念に対する誤解から、多くの人が農村を後にし、都会の生活に浸ろうとしています。このような変化は、貧しい見捨てられた青少年が穏やかに余暇を過ごして遊ぶ自由な場の広がりや、今日、阻んでいます。何でもお金がかかり、あらゆることが高くて、学校には、若者たちの実存的不安を受けとめ方向づけるために、皆がお金を払わずに遊べる、自由に使える運動場がありません。チュニジアは、すべての人を包み込む、あらゆる種類の解放の道を歩み出しているように見える国です。しかし、残念なことに、社会階級の優越感情を癒すには至っていません。例えば、私たちの学校で、教師は自分が管理人より偉いと思い、管理人は自分が掃除婦たちより偉いと思っています。



デウドネ・ラマザニ・ルクンドゥラ, SDB

1992年、**コンゴ民主共和国**のイトゥリ／ブニアに生まれる。真にアフリカらしい家庭の出身。**ルブンバシ**でドン・ボスコのサレジオ会と出会う。ルブンバシの「若者の町」で修練準備期を、ザンビアのマケニールサカで修練期、タンザニアのモシでポストノビスを過ごす。

2018年にサレジオ会員となり、2021年から宣教師Ad Gentesとして派遣され、現在はチュニジアのマヌーバで働いている。

非暴力の原則

出典：www.controlarms.org

- フ
オ
|
ラ
ム
- 非暴力による抵抗とも呼ばれる非暴力の原則は、社会的、政治的な変革を達成するための物理的な暴力の行使を拒否することです。
 - 毎年、**800万**の小型兵器が生産されています。
 - 地球上の人一人当たり、毎年、**2つの破裂弾**が生産されています。
 - 銃の暴力によって命を落とす**3人のうち2人**は、「平和な」と言われる国々の人たちです。
 - 銃の暴力によって命を落とす人一人当たり、**10人の負傷者**がいます。



4月 サレジオ 宣教の 祈りの意向

平和と非暴力の文化のために

チュニジアのサレジオ会員が、愛と平和の促進を手助けしますように。

国々による、また市民による武器の使用を削減することによって、平和と非暴力が広まりますように、祈りましょう。 | 教皇フランシスコの祈りの意向 |

チュニジア
のために

